

## 対向アンビル型装置による磁化と NMR 測定、量子磁性から超伝導まで

北川 健太郎 (東京大学 理学系研究科)

低温や磁場との組み合わせが必要とされる固体物性研究では、特に数 GPa 以上での測定手段や測定精度がかなり限られてきた。我々は、量子磁性と超伝導の研究を目的として、12GPa まで実用的な核磁気共鳴技術と、6GPa まで常磁性を測定可能な磁化測定技術を開発した。どちらも試料体積効率を重視した特殊な対向アンビル型クランプセルを用いており、その詳細と測定例を紹介したい。